

集団的自衛権行使容認は戦争への道。許すな！

安倍首相は15日、私的諮問機関である安保法制懇からの憲法解釈変更による集団的自衛権行使容認の報告書の提出を受け、与党での検討を開始しました。

これを受け、日本共産党は全国各地で安倍首相の暴挙を糾弾、集団的自衛権行使の容認で米軍と一体となって日本が戦争をたたかうことになるのは必至だ、憲法を守れと訴えました。

私も18日午後、宣伝カーを出し、柿崎区や吉川区の街頭から訴えました。

私は、まず、「『集団的自衛権の行使』とは、日本に対する直接の武力攻撃がなくても、他国のために戦争することであり、日本国憲法の平和原則を乱暴にこわす重大な問題」であり、「本来、国民が憲法によって国家権力をしぼるというのが『立憲主義』の立場であって、国の在り方を決めた基本

法である憲法を、時の内閣の判断で自由勝手に解釈改憲することなどあつてはならないこと」だとのべました。

安倍首相は、集団的自衛権の行使は「必要最小限度」のものに限定するかのようになっています。これについても言及、「集団的自衛権行使容認の最終的な判断は、時の政権にまかされることになり、何の歯止めにもならない」と指摘しました。

そして、「日本共産党は、東南アジアの国ぐにが実践している平和の枠組みを、北東アジアにも広げる『北東アジア平和協力構想』を提唱している。いまこそ、日本

共産党と力をあわせ、『平和憲法を守れ』の世論と行動を大きくひろげ、安倍内閣の企てをストップさせよう」と訴えました。

水不足、深刻な状態に

4月、5月と少雨が続き、田んぼの水不足が深刻化してきています。私は20日、大島区の中野、上達の田んぼの状況を視察してきました。

このうち中野では、Tさんの案内で代かき後、乾いてしまった田んぼ（写真下）等を見てきました。



「今日の平和展2014」で展示されていた直江津の高橋トシさんの作品。赤、白、黄色のチューリップがとてもきれいで、見ていると、心が安らぎます。



市議会主催の議会報告会が市内4会場で行われ、私は浦川原会場へ行ってきました。副議長、常任委員会報告の後の質疑、たくさん出ました。

ガス水道局所管の入札談合疑惑問題では、100条調査委員会を設置していない議会に対して、「本当に市民の方に目を向けているのか疑問だ」という声が出されました。答弁者は、「議員としての資質を問われていると思う。すごく難しい問題だ。委員会としても、これで終わりにしたわけではない。しっかりやっていきたい」と答えていました。発言した市民は、「時間が経つと意識が薄れていく。今回はいいチャンスだ。ずるずるいかないようにもう少し、早めに対応してほしい」と訴えていました。

このほか、「2万円だった人間ドック補助が半額になった。元に戻してほしい」「ほくほく線の上越妙高駅までの乗り入れがなかなか前に進まない原因のひとつに技術的な問題がある。よく研究して実現を」「幼稚園から高校まで無料化してほしい」などの訴えがありました。

耕作放棄地が出ないようにという訴えがあり、私からも答弁させてもらいました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1658 2014.5.25
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

いつもこの運動会には素敵なドラマがあるんですよ。ぜひ出かけてください。あ、新聞記者さんに電話でそう話したのは、県立吉川高等特別支援学校の運動会が始まる一時間ほど前でした。

五月も半ば、数日間、夏のような高温の日が続きました。その後、一気に気温が下がり、運動会の日には寒くて防寒着を用意しなければならぬくらいでした。創立から四年目の同校の運動会は初めて体育館内で開会式をやり、前半の競技もこの室内で行われることになりました。

段ボールを次々と敷き、その上を歩いてゴールを目指す種目やフラフープをくぐり、それを校長先生や教頭先生に渡す種目など一学年から三学年までの競技種目が終わってまもなく、ふれあいレースが始まるうとしていた時でした。

来賓席に姿を見せた前PTA会長の伊藤さんが、私に小さな声で「きょうは卒業生も来ているんです」と教えてくださったのです。うれしかったですね。ふれあいレースに参加する人たちの列を見ると、眉毛の濃い男性も伊藤さんの息子さんもいるじゃないですか。ほかに何人か見覚えのある卒業生がいました。

三月まで同じ学校で学んでいた卒業生が体育館の中央部に登場したことにより、卒業生も参加していることをみんなが確認できました。そして、運動会の雰囲気ぐんと温かいものになったのです。在校生だけでなく、先生方も保護者も地域の人もみんなうれしそうでした。卒業生も久しぶりに母校へやってきて喜びいっぱいです。それは体の動きにも顔の表情にも出ていました。

卒業生の参加がわかってからの種目はPTA種目、大玉送りでした。そのちよっと前、体育館内に音楽が流れました。君は何を今 見つめているの 若い悲しみに 濡れたひとみで……そう、青い三角定規のヒット曲、「太陽がくれた季節」です。誰が考えたのか、素敵な演出でした。大玉送りは2対0で紅組の勝ちとなりましたが、負けた白組の人たちもいい気分で競技に参加できたのではないのでしょうか。

体育館内での最後のプログラムは紅組と白組による応援合戦でした。これがまた、力の入った応援合戦になりました。鳴り物はどちらの組も太鼓とペットボトル。ペットボトルの中には小石でしようか、硬いものが入れているようでした。太鼓の音とペットボトルのガチャツ、ガチャツという音がかみ合い、力強い応援となりました。

旗振り役の生徒も頑張っていましたよ。白組の旗振りには吉川中学校出身のY君です。隣の席に座っていた「まちづくり吉川」の小山会長さんが「あっ、Y君だ」と言った次の瞬間、私も「がんばれ」と声をかけていました。応援リーダーもよかったです。力強い応援を指揮し、応援が終わった時点で、全員を整列させ、「礼、ありがとうございます」という言葉がまた決まっていました。

私はこの日の運動会は都合で前半だけしか見られませんでした。前半の種目が終わった時点で、来賓席に来た先生が、「年々、パワーアップしてきています」と言われ、吉川小学校前校長の八島先生も「応援がすごかった」と評価されていました。

開会式で校長の赤松先生は、「一つひとつのご飯つぶもオニギリになるときはギョツとしまして力を発揮します。がんばりましょう」と話しておられました。四回目の運動会では生徒、教職員、保護者、地域の人たち、それに卒業生も加わって、みんなが力を合わせて大きなオニギリをつくることできたと思います。

年金者組合ハイキングで尾神岳へ

年金者組合の5月のハイキング、行き先は尾神岳でした。私の地元ということもあって案内役をさせていただきました。(写真は11日、尾神岳)。

青空が広がるなかで、頸城三山や信越国境の山々、兜巾山、黒姫山、八石山などがよく見えました。「黒姫山の奥の方に見えるのは増位山です」と言ったら、みんなが「えっ」と言い、その後、大笑いに。山頂付近ではまだ雪が残っていて、マンサクの花は満開、楽しいひと時でした。



大学生や中学生が参加し、「いきいき春日野ふれあいコンサート」

18日は「いきいき春日野ふれあいコンサート」に参加してきました。コンサートは春日謙信交流館大ホールが会場、満席でした。

春日中学校合唱部や上越教育大学吹奏楽団が合唱や演奏を披露してくれました。春日中学校の合唱で詩人、谷川俊太郎の詩が「あめ」「にわとり」などの歌になっていることを初めて知りました。「あまちゃん」で始まった上教大吹奏楽団の演奏は楽器を紹介したり、みんなで踊ったりしながら、とても楽しいものでした。中学生や大学生が地域住民と一体になって盛り上げている姿に感動しました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果(測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だということです。

	5月14日(水)	5月21日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.047	0.057
新井消防署	0.050	0.046
頸北消防署	0.053	0.043
頸南消防署	0.050	0.050
東頸消防署	0.056	0.053
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.050	0.050

いつもこの運動会には素敵なドラマがあるんですよ。ぜひ出かけてください。あ、新聞記者さんに電話でそう話したのは、県立吉川高等特別支援学校の運動会が始まる一時間ほど前でした。

五月も半ば、数日間、夏のような高温の日が続きました。その後、一気に気温が下がり、運動会の日には寒くて防寒着を用意しなければならぬくらいでした。創立から四年目の同校の運動会は初めて体育館内で開会式をやり、前半の競技もこの室内で行われることになりました。

段ボールを次々と敷き、その上を歩いてゴールを目指す種目やフラフープをくぐり、それを校長先生や教頭先生に渡す種目など一学年から三学年までの競技種目が終わってまもなく、ふれあいレースが始まるうとしていた時でした。

来賓席に姿を見せた前PTA会長の伊藤さんが、私に小さな声で「きょうは卒業生も来ているんです」と教えてくださったのです。うれしかったですね。ふれあいレースに参加する人たちの列を見ると、眉毛の濃い男性も伊藤さんの息子さんもいるじゃないですか。ほかにも何人か見覚えのある卒業生がいました。

三月まで同じ学校で学んでいた卒業生が体育館の中央部に登場したことにより、卒業生も参加していることをみんなが確認できました。そして、運動会の雰囲気ぐんと温かいものになったのです。在校生だけでなく、先生方も保護者も地域の人もみんなうれしそうでした。卒業生も久しぶりに母校へやってきて喜びいっぱいです。それは体の動きにも顔の表情にも出ていました。

卒業生の参加がわかってからの種目はPTA種目、大玉送りでした。そのちよっと前、体育館内に音楽が流れました。君は何を今見つけているの 若い悲しみに濡れたひとみで……そう、青い三角定規のヒット曲、「太陽がくれた季節」です。誰が考えたのか、素敵な演出でした。大玉送りは2対0で紅組の勝ちとなりましたが、負けた白組の人たちもいい気分で競技に参加できたのではないのでしょうか。

体育館内での最後のプログラムは紅組と白組による応援合戦でした。これがまた、力の入った応援合戦になりました。鳴り物はどちらの組も太鼓とペットボトル。ペットボトルの中には小石でしようか、硬いものを入れてあるようでした。太鼓の音とペットボトルのガチャツ、ガチャツという音がかみ合い、力強い応援となりました。

旗振り役の生徒も頑張っていましたよ。白組の旗振りは吉川中学校出身のY君です。隣の席に座っていた「まちづくり吉川」の小山会長さんが「あっ、Y君だ」と言った次の瞬間、私も「がんばれ」と声をかけていました。応援リーダーもよかったです。力強い応援を指揮し、応援が終わった時点で、全員を整列させ、「礼、ありがとうございます」という言葉がまた決まっていました。

私はこの日の運動会は都合で前半だけしか見られませんでした。前半の種目が終わった時点で、来賓席に来た先生が、「年々、パワーアップしてきています」と言われ、吉川小学校前校長の八島先生も「応援がすごかった」と評価されていました。

開会式で校長の赤松先生は、「一つひとつのご飯つぶもオニギリになるときはギョツとしまつて力を発揮します。がんばりましょう」と話しておられました。四回目の運動会では生徒、教職員、保護者、地域の人たち、それに卒業生も加わって、みんなが力を合わせて大きなオニギリをつくることできたと思います。

吉川区体育協会、剣道やテニスなどで活躍した人たちを表彰

夕方からは吉川区体育協会の表彰式、レセプションが18日、多目的集会場で行われました。剣道やテニスなどで昨年度大活躍した子どもたちに表彰状が贈られまし

た。若い人たちがスポーツの分野で活躍してくれるのは、地域住民にとっては大きな励ましになります。（写真は表彰された人たち）

表彰式後、全日本スキー連盟参与の平井俊雄先生が講演、ソチオリンピックのジャンプでメダルをとった清水礼留飛選手と父親の指導などについて、いくつかのエピソードを紹介してくださいました。「父親のヒサユキさんは国体に38回連続で出場している。これは原田以上だ」

「競技では親子の信頼関係が一番大事。家の仕事をしっかりやって、トレーニングもやっていたのが父親だ」「礼留飛選手はトキメキ国体のときに中学生だったが、選

手宣誓をやってもらった。開会式の10分前にはいねむりをしていたが、時間になったら素晴らしい選手宣誓をしてくれた」など興味深い話が満載でした。

レセプションではスポーツ関係者の方と懇談できました。私の挨拶で国体選手だった片桐さんの話をしたことから、昔、吉川高校に横田先生などがスキーの指導で頑張っておられたことなどが次々と出されました。楽しい時間を過ごすことができました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	5月14日(水)	5月21日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.047	0.057
新井消防署	0.050	0.046
頸北消防署	0.053	0.043
頸南消防署	0.050	0.050
東頸消防署	0.056	0.053
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.050	0.050

